

鳥羽の昔と今

私たちが住んでいる鳥羽には、どんな「昔」があったのでしょうか？
 今の観光の町・鳥羽は、いつごろから、どんなことがあってできたのか、
 昔のできごとをたどってみましょう。



「鳥羽城之絵図」。江戸時代末ごろのもの。

もくじ

- 83 「鳥羽^{りゅう}竈」のいたころ
- 84 答志島^{とうしじま}の蟹^{かに}穴^{あな}古墳^{こふん}・岩屋山古墳^{いわやまこふん}
万葉集^{まんようしゅう}にうたわれた鳥羽
- 85 安楽島^{あらしま}の贅遺跡^{えいせき}
木簡^{もつかん}にみえる志摩^{しま}の海産物
- 86 神島^{かみしま}の八代神社^{やつしろ}の宝物
- 鳥羽^{ひよりやま}・日和山^{ひるいし}の方位石
- 87 代々の鳥羽城主^したち
- 88 安政地震^{あんせいじしん}の津波^{つなみ}の碑^ひ
- 89 外国船^{らいこくせん}の来航^{らいこう}と砲台^{ほうだい}
菅島灯台^{すがしま}と篝堂跡^{かがりどうあと}
- 90 鳥羽^{さんぐつ}の鉄道^{てつどう}(参宮^{さんぐう}鉄道^{てつどう}と志摩^{しま}電鉄^{でんてつ})
- 91 鳥羽^{いせき}の戦争^{いせき}遺跡^{いせき}
伊勢志摩^{いせしま}国立公園^{こくさいてき}の指定
- 92 鳥羽市^{たんじょう}の誕生
- 93 国際^{こくさいてき}的な観光地^{こくさいてき}への仲間入り





「鳥羽竜」のいたころ

鳥羽駅からパールロードを東に行くと、安楽島町の道ぞいに「化石発見地」という標識があります。すぐ近くに鳥羽竜の説明板と化石のレプリカ（模型）があり、そこから階段を下りると、化石が見つかった海岸に出ます。

1996（平成8）年7月、ここで発見された化石は、全長16～18m、体重31～32tもある草食恐竜のもので、ティタノサウルスの仲間と推測されています。見つかった場所にちなんで「鳥羽竜」というニックネームがつけられました。生きていたのは、1億3800万年前ころ（中生代白亜紀前期）とみられ、現在のよな日本列島は、まだありませんでした。もちろん、人間は地球上のどこにもいない、はるかな大昔です。

海岸を下りてみましょう。化石は黒っぽい岩の中から見つかり、ここに「松尾層」という古い恐竜時代の地層が残っていたことが分かっています。

今までに発見されたのは、右大腿骨（ふとももの骨）など12個の骨で、頭の骨や歯は見つかりません。浜に転がっている石などを探すと、貝の化石や草類の化石を見つけることができます。

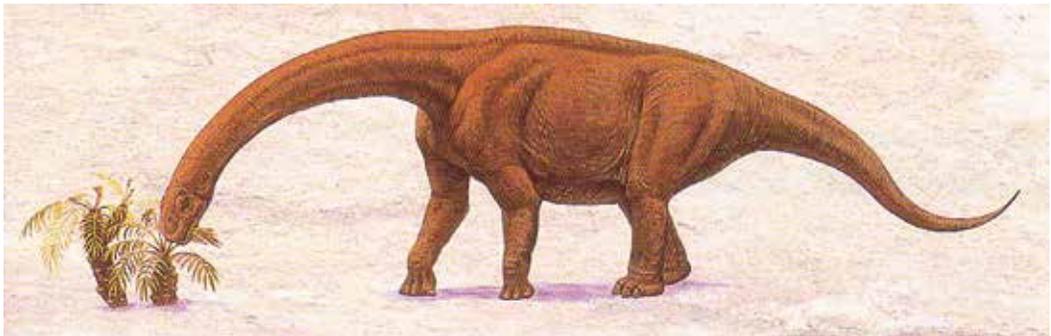


発見現場の海岸での化石採集会。



鳥羽竜の大腿骨の化石。現在は三重県総合博物館で展示しています。

鳥羽竜はこんな姿をしていた！



植物を食べていた「鳥羽竜」の復元図。

鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小



とうしじま がにあな こふん いわや やま こふん 答志島の蟹穴古墳・岩屋山古墳

とうしじま
答志島には古くから人がくらししていた遺跡
あり、力を持った豪族の墓である古墳が
たくさんあります。ふね
舟で行き来する人々にとっ
て、海は「道」であり、良い港がある答志島
は志摩地方の中でも進んだ地域の一つでした。
わぐこう ちようおんじ
和具港から潮音寺のわき道を行くと、7世
紀後半につくられた蟹穴古墳があります。こ
こからは高さが55cmもある須恵器と呼ばれ
る陶器の壺が出土し、国の文化財となってい
ます。

さんちよう
山頂まで登ると、いわや やま
岩屋山古墳があります。
直径22m、高さ2.5mの円墳で、大きな石室
がほぼ完全な形で残り、市の史跡に指定され
ています。



蟹穴古墳は上半分が失われています。



岩屋山古墳の天井は、大きな6枚の岩。

岩屋山古墳は中が
石の部屋みたい
になっているよ。



まんようしゅう 万葉集にうたわれた鳥羽

まんようしゅう
万葉集は、700年代終わりごろにできあがった日本で一番古い歌集です。その
ころ都がおかれていた奈良には海がないので、都の人たちは伊勢志摩の海にあこが
れを持っていました。

はちまん
答志町の八幡神社入口に、万葉集の代表的な歌人・柿本人麻呂の歌碑が建ってい
ます。刻まれているのは、「答志の岬で
は、今日あたり、お供の大宮人が美し
い藻を刈っていることであろうか…。」
という意味の歌です。

じどうてんのう
この歌は692年、持統天皇が伊勢を
おとず 訪れた時、都に残った人麻呂が情景を思
い浮かべて作った、とされています。



答志島をよんだ柿本人麻呂の歌碑。



あらしまにえいせき 安楽島の贄遺跡



贄遺跡はこの海岸から見つかりました。



金銅製のベルトの金具。



和同開珎。

見つかったことです。当時ここには、都や役所と深いつながりを持った人々がいたことを示しています。

また勾玉など、祭りに関係の深いものも多数出土したことから、ここは漁師たちが住んでいた村ではなく、天皇や神の食べ物やお供えとなる特別な海産物「贄」をととのえる大切な場所であったらうと考えられています。



もっかんししま 木簡にみえる志摩の海産物

奈良時代の都・平城京のあとから発掘された「木簡」(木の札)の中に、「志摩国答志郡和具郷…御調海藻六斤…」と記されたものがあります。答志島の和具から、「調」(布や特産物で納める税)として運ばれた海藻(干しワカメ)に付けられた荷札とみられています。

志摩からは、干しアワビなどの貝類や海藻類、塩漬けや干物にした魚の加工品など、海産物が税として納められました。

志摩国は、天皇に食べ物をささげる「御食国」として古くから知られ、高級な海の幸の産地として認められていたのです。

あらしま
安楽島町の海岸で、1972(昭和47)年から発掘調査が行われ、発見されたのが贄遺跡です。その場所は、今はホテルの庭園になっていますが、およそ5000年前の縄文時代中期から平安時代まで、なんと約4000年間も続いていた遺跡だったのです。

各時代の土器とともに建物あとなども数多く発見されました。中でも注目されるのは、奈良・平安時代の身分の高い役人が身につけていた金銅製のベルトの金具や、そのころ都の周辺でしか使われなかった「和同開珎」などの貨幣(お金)が



奈良の平城京あとから出土した木簡。「答志郡」と記されています。

鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小



かみしま やつしろ 神島の八代神社の宝物

かみしま うじがみ やつしろ
神島の氏神である八代神社は港から約15分、
200段もの石段を登った高台にあり、海の神を
まつています。

神島は昔、東日本から伊勢神宮へささげる品物
を運ぶ船が通る重要な地点でした。八代神社に
は、海がおだやかで何事もなく通れることを祈っ
て、多くの宝物が供えられました。

その神宝には、銅鏡、太刀、馬具などの道具、陶
器などがあります。中でも古墳時代から平安時代の鏡が64面もあります。国の重要文
化財に指定され、宝物館で保管されています（ふだんは非公開）。



古墳時代の銅鏡。



ひよりやま ほうい いし 鳥羽・日和山の方位石

鳥羽は、もとは「泊浦」「泊」といわれ、昔から船が泊まるのに適した波静かな港で
した。しかし、港町として全国的に名が知られるのは、江戸時代になってからです。
江戸（今の東京）の町が発展すると、食料品など生活物資を大阪から運ぶたくさんの
船が「海の東海道」を行き交うようになりました。鳥羽港には、大阪からの船も、江
戸からの船も必ず泊まり、薪や水を補給し、船出の風待ち・日和待ちをしたのです。

JR鳥羽駅近くにある日和山の展望台には、八角形の方位石があります。船頭た

ちは、風向きや雲の流れる方角
を方位石から読んで、船出を決
めました。いい風に乗れるか、
暴風雨にあわないか、船と船員
たちの命がその判断にかかって
いたのです。



帆を下ろした船が泊まる江戸時代の
鳥羽港。（歌川広重の絵）



日和山にある方位石。12の
方位が刻まれています。

昔は天気予報が
なかったから、
自分で判断したんだね。





代々の鳥羽城主たち



6代城主の土井利益。10年間城主をつとめました。



8代城主の板倉重治。8年間城主をつとめました。



稲垣氏の墓所。常安寺の九鬼家の墓所となりにあります。

翌年から土井氏、松平（大給）氏、板倉氏、松平（戸田）氏と、次から次へ城主が替わりました。

1725年に稲垣氏が城主になると、幕末まで8代、140年あまり鳥羽を治めました。この間には、病気の流行や津波などの災害が多くおこりました。鳥羽藩は田畑が少なかったため、大規模なボラ漁を営んだりして藩の収入を支えました。

1633年、九鬼氏が国替えによって鳥羽を去ると、徳川家の家臣であった内藤忠重が城主になります。忠重は、鳥羽城に二の丸・三の丸を増築して、二の丸に御殿をつくるなど、城内を整備しました。

内藤氏は3代続いて城主になり、鳥羽が海上交通の重要な港であることから、菅島に今の灯台にあたる篝堂を建てて、その経費が幕府から支給されるようにするなど、鳥羽を大阪と江戸を結ぶ航路の港町として繁栄させました。

1680年、内藤氏が江戸で殺傷事件を起こし、領地が没収となって、鳥羽はしばらくの間、幕府の領地になります。そして



鳥羽城主になった殿様は
何人いたのかな？



あんせいじしん つなみ ひ 安政地震の津波の碑

海辺にある鳥羽は、記録によると、何度も地震による津波におそわれています。とくに1854年に起こった「安政の大地震」では、鳥羽藩内でおぼれ死んだ人とけが人を合わせて約100人、流されたりこわれたりした家の被害が約900軒あったといわれます。

パールロードを下りた浦村町今浦では、波打ち際で高さ約6mの津波が、海岸から500m奥までおしよせ、死者子ども一人、流された家35軒という被害が出ました。集落を見下ろす大江寺下の道路わきには「大津浪塩先標柱」と刻まれた石柱が建ち、津波がここまで来た、と示しています。

となりの浦村町本浦でも、海面から高さ5mほどの津波によって、56軒の家とボラ漁の網や船が流されました。高台にある清岩庵の境内には「津波の碑」が建ち、「大津波はこの寺まで達した。幸い死んだ者はなかったが1か月ほど粗末な住まいですごし、たいへん苦労した。」と刻まれています。

また、太平洋につき出た国崎町では、高さ21mもの大津波におそわれ、6人の死者を出し、家4軒と網や船の大部分が流されました。坂の上にある常福寺の境内には「津波流失塔」が建てられ、この被害を永く伝えようとする当時の人の思いが刻まれています。



今浦・大江寺山門下の「大津浪塩先標柱」。



本浦・清岩庵の門わきにある「津波の碑」。



国崎・常福寺にある「津波流失塔」。

ほかの地区にも、津波被害のようすが伝わっているかもしれないね。



鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小



外国船の来航と砲台

1800年代後半になると、日本の沿岸に外国船がさかんにやって来るようになり、幕府は全国の藩に港や海岸をきびしく警備させました。

鳥羽藩では、菅島、安楽島、御座(志摩市)など各地の岬に大砲をそなえて守りを固めました。伊勢湾の入り口にあたる鳥羽港付近には10か所あまりの砲台がつくられました。

その一つが、坂手島西側の岬(田の崎)に残る砲台跡です。今はホテルの庭園になっていますが、三重県指定の史跡を示す説明板が立っています。



坂手島の砲台跡。



菅島灯台と篝堂跡

江戸時代、鳥羽は江戸と大阪を結ぶ海路の要所であると同時に、周辺には海の難所があるところとして知られていました。幕府は、菅島と神島にかがり火を燃やす篝堂や燈明堂をおいて目印とし、鳥羽港に入る船の安全をはかりました。

明治になって篝堂が廃止され、建てられたのが灯台です。菅島の北側にある白いレンガ造りの灯台は、1873(明治6)年に国産のレンガで建てられた、日本にある一番古い洋式灯台で、国の登録有形文化財です。イギリス人技師が設計し、完成の式には西郷隆盛も訪れたとされています。

1910(明治43)年には神島灯台も点灯を始めました。

菅島灯台の中は、「しろご祭り」の日に見学できるよ。



篝堂の模型。(海の博物館展示)



菅島灯台。神島灯台とともに「日本の灯台50選」に選ばれています。

鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小



鳥羽の鉄道 (参宮鉄道と志摩電鉄)

明治の初めごろ、鳥羽には、陸上交通は荷車ぐるまや人力車じんりきしゃしかありませんでした。初めて鉄道てつどうが敷かれたのは、1911（明治44）年、国鉄こくてつ（今のJR）参宮線さんぐうせんの宇治山田うじやまだ～鳥羽間が開通した時です。

当時は海上交通でも、蒸気船じょうきせんが熱田あつた（名古屋）～鳥羽間などの運行を始めていました。鳥羽へは、春・秋は修学旅行しゅうがくりょこうの団体だんたいが、夏は海水浴ひしょや避暑ひしょくの人が、また新年には伊勢神宮いせじんぐうに参拝さんぱいして足をのばす人など、多くの観光客くわんこうきゃくが訪れるようになり、旅館りょかんも増えていきました。そのころの鳥羽観光の中心は、島々のながめが美しい鳥羽湾わんの遊覧ゆうらんだったそうです。

大正時代になると、鳥羽と志摩しまを結んで乗り合のりあい自動車じどうしゃ（バス）の運行が始まり、1929（昭和4）年には、志摩電鉄しまでんてつ（今の近鉄志摩線かじこしま）の鳥羽～賢島間かじこしまが開通しました。

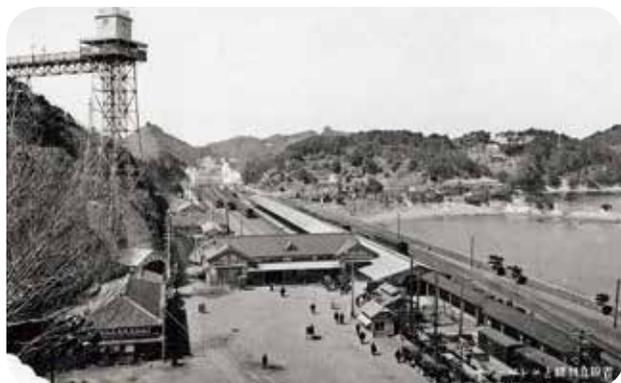
1934（昭和9）年に日和山ひよりにエレベーターがつくられると、参宮線さんぐうせんの鳥羽駅わたりは、志摩への玄関口げんかんぐちとして、また名古屋・大阪・京都など大都市からの終着駅しゅうちやくえきとして、観光客でにぎわいました。



鳥羽駅に着いた蒸気機関車。



赤崎駅（今の近鉄、志摩赤崎駅）に着いた志摩電。



国鉄鳥羽駅と日和山エレベーター。

このころ鳥羽にも、蒸気機関車が走っていたんだね!





鳥羽の戦争遺跡

菅島の北西の山頂と、神島の東側の高台にある監的哨跡は、日本が外国と戦争したときに建てられて今も残る「戦争遺跡」です。

ともに1929（昭和4）年ごろ、対岸の伊良湖（愛知県）にある試砲場からうった砲弾が海上のどこまで届くかを確認するために、旧陸軍によって建てられました。

コンクリート造りの建物の上からは、広い海が遠くまで見わたせます。神島の監的哨跡は、三島由紀夫の小説『潮騒』の重要な舞台として有名になりました。



神島の監的哨跡。2階建ての屋上から海が見わたせます。



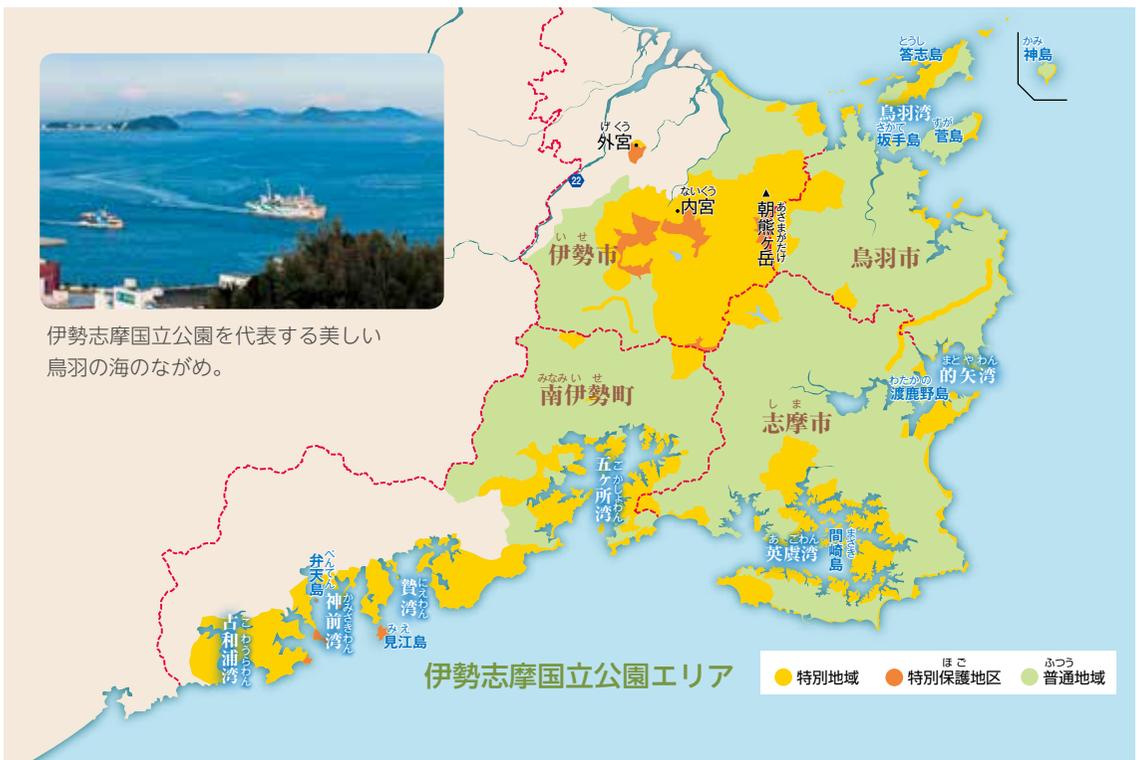
伊勢志摩国立公園の指定

1946（昭和21）年、伊勢志摩国立公園は13番目の国立公園として誕生しました。「志摩を国立公園に」という運動は昭和の初めごろからありましたが、戦争により中断され、戦後になって、今の鳥羽市・志摩市の全域と、伊勢市と南伊勢町の一部が、合わせて戦後初の国立公園に指定されたのです。

全域が国立公園にふくまれる鳥羽市の中でも、とくに自然のままの景色が残る離島など、一部は大切な特別地域に指定されています。



伊勢志摩国立公園を代表する美しい鳥羽の海のながめ。



鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小



鳥羽市の誕生

1954（昭和29）年11月1日、それまでの志摩郡鳥羽町と、加茂・長岡・
答志・鏡浦・桃取・菅島・神島の旧7村が合併して、鳥羽市が誕生しました。

当時の人口は3万人あまりで、産業では、自然条件に恵れた鳥羽港を中心に、海
運業や水産業、造船をはじめとする工業、加茂地区を中心とする農業があり、そし
てもっとも将来が期待されたのが観光業でした。

1951（昭和26）年にミキモト真珠島が開島し、1955（昭和30）年に
鳥羽水族館が開館したころから、「鳥羽湾めぐり—真珠島—水族館」が新しい観光ル
ートになり、鳥羽は海洋観光都市として発展していきます。

レジャー施設や旅館・ホテルがつくられ、また伊勢志摩スカイラインやパールロ
ードの開通、名古屋・大阪・京都と直通特急で結ぶ近鉄鳥羽線の開通など、道路・
鉄道が整備されました。こうして鳥羽には、「海女と真珠のふるさと」の魅力ある観
光地として、国内ばかりでなく海外からも多くの観光客が訪れるようになったので
す。

人口は、今より1万人以
上も多かったんだね。



開館当初の鳥羽水族館。



にぎわった鳥羽湾めぐり。（昭和40年代）



完成した当時の市役所庁舎。左下は旧役場の建物。

鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小



こくさいてき 国際的な観光地への 仲間入り



ミキモト真珠島で、サンタバーバラ市から訪れた一行と交流。



サンタバーバラ市を訪問した鳥羽市の中学生たちの一行。

スへの対応など、外国人やハンデのある人も楽しめる工夫を進めています。

美しい自然と豊かな海の幸は、昔から続く鳥羽の魅力です。それらをこわさないように守っていきながら、国際的な観光のまちをめざしています。

鳥羽市には、国際的な観光地として国内外から多くの観光客が訪れています。1966（昭和41）年には、アメリカ・カリフォルニア州のサンタバーバラ市と姉妹都市になり、交流をしています。

また、2016（平成28）年には「G7伊勢志摩サミット」が志摩市で行われ、世界のリーダーが伊勢志摩に集まりました。このときミキモト真珠島では「配偶者プログラム」が催され、参加国首脳の夫人など4人を迎えて、海女をはじめ地元の人たちが、太鼓の演奏や踊りでおもてなしをしました。

最近では、サミットによって伊勢志摩は海外でも知られるようになり、外国人観光客も増えてきています。特に、海女漁は注目されており、海女に会える海女小屋の体験施設は外国人観光客に人気です。

これからも、よりたくさんの人たちに来てもらえるように、鳥羽では、外国語の観光案内や車い



伊勢志摩サミットで、参加国首脳の夫人などと記念さつえい。

鳥羽小

答志小

神島小

菅島小

加茂小

安楽島小

鏡浦小

弘道小